

# FUJIFILM XQ1 Maniac

+ FUJIFILM XQ2

Makoto Ichikawa



Second Edition

# 目次

はじめに	・・・	3
1. FUJIFILM XQ1、そしてXQ2	・・・	6
(1) FUJIFILM XF1、X20、XQ1	・・・	6
(2) FUJIFILM XQ1 の入手の経緯	・・・	11
(3) FUJIFILM XQ1 の特徴	・・・	13
(4) ファームウェアのバージョンアップ	・・・	14
(5) FinePix F900EXR と FUJIFILM XQ1 の比較	・・・	15
(6) FUJIFILM XQ2 の入手の経緯	・・・	28
2. つかいこなし	・・・	30
(1) 焦点距離と絞り	・・・	30
(2) ズームレンズと絞り	・・・	31
(3) シャッター速度	・・・	32
(4) 撮影感度	・・・	34
(5) ホワイトバランス（色温度）	・・・	34
(6) 撮影モード	・・・	35
(7) 露出補正	・・・	36
(8) AF フレームのサイズ変更と MF	・・・	36
(9) コントロールリングをズームに割り当て	・・・	37
(10) 液晶モニターの表示設定	・・・	37
(11) 最大撮影枚数を増やす	・・・	38
3. アクセサリーなど	・・・	40
(1) カメラグリップ、液晶保護フィルム	・・・	40
(2) メモリーカード	・・・	42

(3) リモートリリース、ワイヤレスコントローラ	・・・	42
(4) LED ライト	・・・	45
(5) カメラケース	・・・	46
(6) ホワイトバランスのカスタム設定用アクリル板	・・・	48
(7) フラッシュ光のケラレ改善対策	・・・	49
(8) 三脚	・・・	52
4. 撮影域の拡大	・・・	53
(1) ワイコン DW-6 とフィルターネジの付加	・・・	53
(2) クローズアップレンズ	・・・	59
(3) フィルターの組合せ	・・・	60
(4) ラバーフードの組合せ	・・・	62
(5) コンバージョンレンズ (実験)	・・・	63
(6) デジスコ	・・・	68
5. まとめ	・・・	71
Appendix 1: FUJIFILM XQ1, XQ2 の仕様	・・・	72
Appendix 2: 著者の富士フィルムのデジタルカメラ使用歴		75

## ■ Maniac シリーズ

## はじめに

スマートフォンで撮影する姿をよく目にするようになりました。著者もデジタルカメラを持たずに外出した際にスマートフォンのお世話になることがあります。しかし、基本的にはデジタルカメラを常時携帯しています。それはメモ用カメラとして出先で200~300枚撮影することがしばしばあり、「操作性がよく、シャッターチャンスを逃さない」、「撮影可能枚数が把握しやすい」（スマホで撮影し過ぎて通信できなくなるのは本末転倒）、「（スマホより）撮影画質がよい」によります。そして携行に負担とならないサイズ・質量のカメラを選んでいきます。

ローパスフィルターレスの2/3型 X-Trans™ CMOS II センサーによる画質向上を狙ってメモ用カメラとして [FUJIFILM XQ1](#) を入手し、フィルムカメラを想起させる長く使いたくなるデザイン、機能・操作性、そして撮影画質から他のカメラも所有しますが、自然と携行することが増えました。そこで Maniac シリーズの第 21 弾として ”FUJIFILM XQ1 Maniac” をまとめました。

FUJIFILM のプレミアム X シリーズから 2/3 型のラインアップがなくなり、偶然、安価に販売の [FUJIFILM XQ2](#) を目にし、「XQ1 のバックアップ機として欲しい」で入手しました。そしてフィルターネジ対応に改造することを躊躇していた FUJIFILM XQ1 に 43mm のフィルターネジを付加し\*、（取り扱いには慎重を要しますが）0.79 倍のワイドコンバージョンレンズ DW-6 (RICOH) やクローズアップレンズと組合せて撮影領域の拡大を図りました。そこで XQ2 の名称を付して改訂 2 版を発行しました。

著者

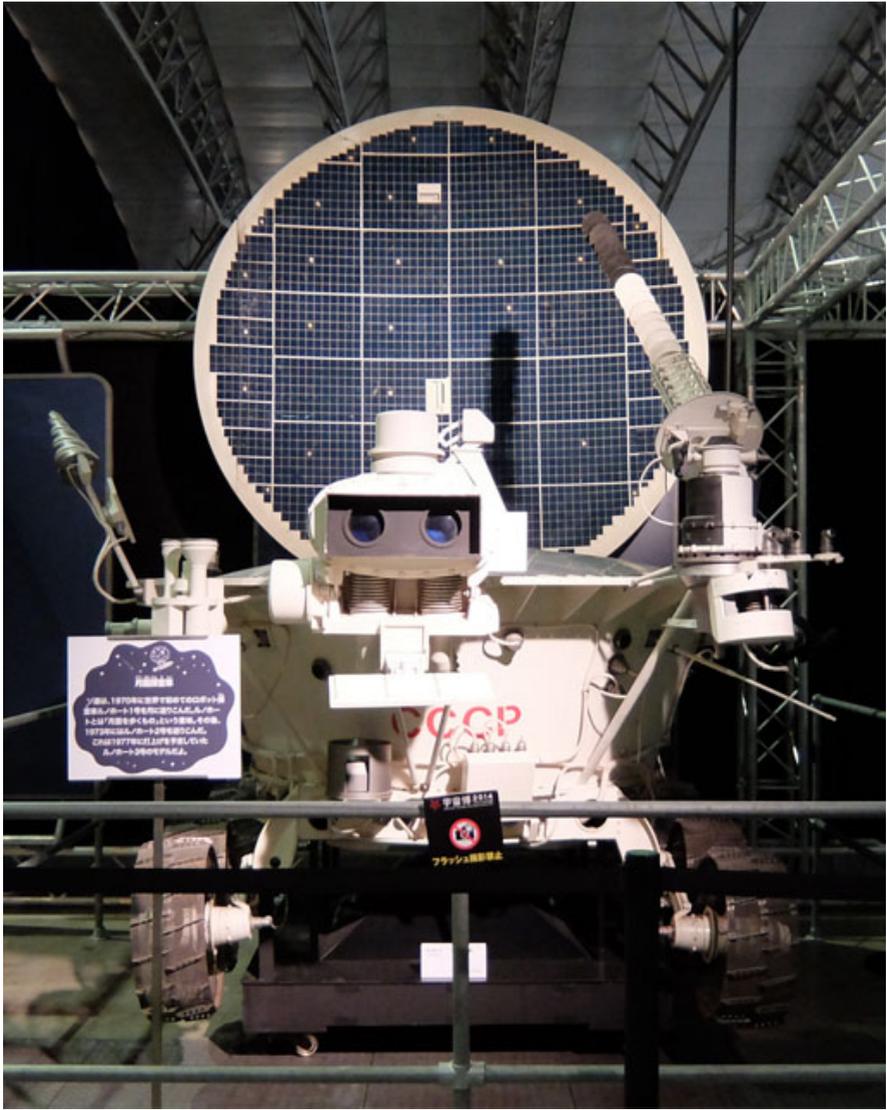
\*：本冊子は改造を勧めるものではありません。故障しても自己責任で対処することが必要なことをご理解ください。



FinePix HS50EXR と FUJIFILM XQ1



COOLPIX P330 改 + DW-6 と FUJIFILM XQ1



月探査ローバー [Lunokhod 3](#) のモデル (『宇宙博 2014』にて FUJIFILM XQ1 で)

# 1. FUJIFILM XQ1、そしてXQ2

## (1) FUJIFILM XF1、X20、XQ1



FUJIFILM XF1 (寸法：107.9×61.5×33.0mm、質量：約 225g)



FUJIFILM XQ1 (寸法：100×58.5×33.3mm、質量：206g)



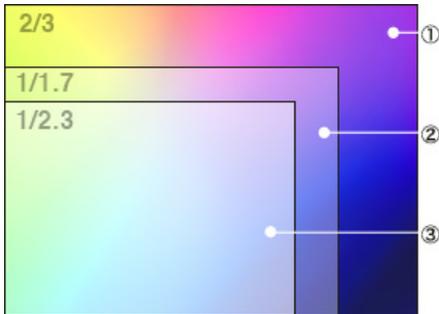
FUJIFILM X20 (寸法：117×69.6×56.8mm、質量：353g)

FUJIFILM XQ1 (寸法：100×58.5×23.3mm、質量：206g)

## ■ [FUJIFILM XF1](#)

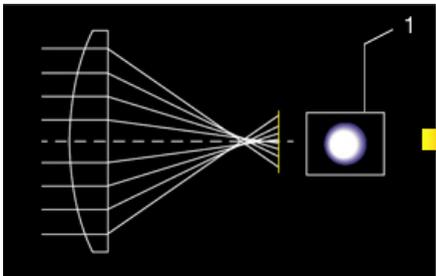
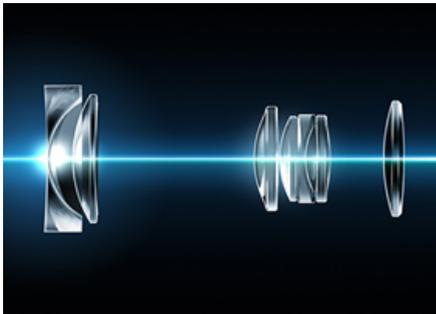
2012年11月3日に発売された[FUJIFILM XF1](#)を初めて見た時、[アール・デコ](#)のデザインを思い出しました。Xシリーズの末弟として[FUJIFILM X10](#)と同様にコンパクトデジタルカメラとして少し大きめの2/3型で画素数至上主義に背を向ける1200万画素EXR CMOSセンサーを内蔵し、焦点距離  $f=6.4\sim 25.6\text{mm}$  (35mm 判換算 25～

100mm 相当)、開放 F 値 F1.8 (広角) ~F4.9 (望遠)、レンズ構成 6 群 7 枚 (非球面 4 枚 7 面) のフジノン光学式 4 倍ズームレンズと組み合わせて XF1 は登場しました。ズームレンズの下部を回転させて引き出して POWER ON する機構が独特ですが、デザインに敏感な女性層を意識したと思わせるデザインは秀逸です。

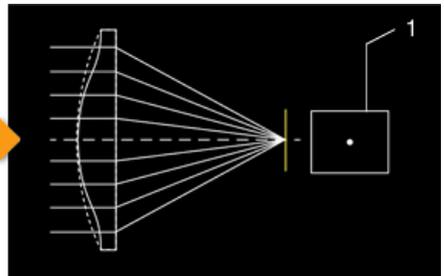


- ① : 2/3 型イメージセンサー
- ② : 1/1.7 型イメージセンサー
- ③ : 1/2.3 型イメージセンサー

左 : イメージセンサーのサイズ比較  
 中左 : レンズ構成  
 中右 : HT-EBC を施されたレンズ  
 下 : 球面レンズと非球面レンズの比較  
 (1 は焦点面)



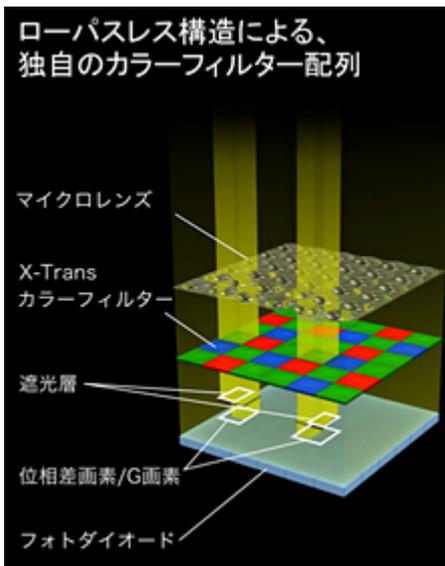
球面レンズ



非球面レンズ

F1.8 を実現するため、「富士フィルムの特殊成形技術による大口径で非球面の超高屈折率レンズを含む 6 群 7 枚のすべてに光学特性に優れたガラス素材を採用し、収差を抑える非球面レンズやEDレンズも使用、そしてゴーストやフレアを大幅低減のため、全レンズ両面に多層コーティング処理技術 HT-EBC (High-Transmittance Electron Beam Coating)が施されているとされます。

## ■ FUJIFILM X20



X-Trans CMOS II センサーのローパスレス構造

FUJIFILM X10 と X20 は趣味性の高いデザイン、光学ファインダー、ダイヤルで直感的な操作が可能な操作系、ホットシュー装備などを共通とします。X20 は撮影情報を表示するアドバンスト光学ファインダーも特徴ですが、やはり、独自の画素配列で大型サイズセンサーに匹敵する解像力を実現、また、裏面照射型の構造により感度を低下させることなく位相差画素を組み込むことで高速 AF を実現とされるローパスレス構造の 2/3 型 12M の

X-Trans™ CMOS II センサー、点像復元処理を行なう [EXR Processor II](#) の搭載などの画質面の進化が魅力です。

FUJIFILM X20 に著者が冷静でいられたのは、35mm 判換算 28mm の広角は建物撮影好きの著者には不足することによります。なお、Web 検索して FUJIFILM X10 / X20 のフィルター径 40.3mm を 43mm に変換するステップアップリング(STOK)を amazon.co.jp で見つけ、

「現有の取り付けネジ径 43mm の 0.79 倍のワイドコンバージョンレンズ DW-6 (RICOH) との相性はどうか」と煩惱は生じました。

## ■ FUJIFILM XQ1



FUJIFILM XQ1 の 7 枚絞り羽根

FUJIFILM XQ1 は FUJIFILM XF1 の後継機として、撮像素子のサイズは XF1 と同じですが、X20 と同じローパスフィルターレスの 2/3 型 X-Trans™ CMOS II センサーと画像処理エンジン EXR プロセッサー II を組合せて、光学系は XF1 を踏襲しながら一般的な電動ズームレンズとなって登場しました。そしてボケ味にも関係する絞り羽根枚数は XF1 の 6 枚に対して XQ1 は 7 枚となりました。『[XQ1 センサー X Story FUJIFILM](#)』で「解像度のピークを F1.8 で実現」、また、『[点像復元技術 X Story FUJIFILM](#)』で「XQ1 も絞り込んでの撮影でシャープな画像が得られます。」の記載から「絞り値をあまり気にしないで使える。7 枚絞り羽根となったのは点像復元技術との関係があるのかな」と考えています。

XQ1 の外形寸法は XF1 より縦横が若干小さくなりましたが、CANON PowerShot S120(及び S110)に近い寸法で、PowerShot S110 を直接の競合機種として製品企画されたことが推測されます。

FUJIFILM XQ1 のシルバー仕上げはその外装の線の柔らかさもあり、XF1 の後継として女性を意識したものと考えられます。一方、色違いのブラック仕上げは X20 と比較してみると昔のカメラの上部カバーを彷彿とさせる両機のデザインの共通性がわかり、「スモール X20」として男性層を意識して製品企画されたものと推測されます。

## (2) FUJIFILM XQ1 の入手の経緯



COOLPIX P330 (Nikon) 改



PowerShot S120 (Canon)



Lumix DMC-LX7 (Panasonic)



STYLUS XZ-2 (Olympus)

シャッターボタンの周囲にズームレバーのある FinePix F シリーズ (F100fd、F300EXR) で撮影枚数 1 万枚を超え、ズームレバーの操作に対するズームレンズの反応が悪くなる症状に見舞われました。そこでメモ用カメラとして使用の FinePix F900EXR もいずれ同様の症状

に見舞われることが予想されるため、後継機となるメモ用カメラの検討をし始めました。条件は撮像素子サイズは 1/1.7 型あるいはそれより大きいもので画素数は 1200 万画素程度、35mm 判換算の広角側の焦点距離は 24mm (25mm も可)、そして質量は 200g 程度です。このクラスのコンパクトデジタルカメラについて若干、検討しました。

### 【[COOLPIX P330](#) (後継機 [COOLPIX P340](#))】

“[COOLPIX P330 Maniac](#)”で触れたようにカメラ改造のアイデア (デジスコ対応) が浮かび、「改造〇〇」の血が騒ぎ、2013 年に COOLPIX P330 を入手しました。そしてワイドコンバージョンレンズ [DW-6](#) (RICOH) という相棒を得て「広角撮影が必要な時はこの組合せ」となりました。なお、改造で特別なカメラとなったため、手荒な扱いとなるメモ用カメラとしては常時携行できなくなりました。

### 【[PowerShot S120](#)】

PowerShot S120 のレンズは 35mm 判換算 24~120mm F1.8 ~F5.7 で建物撮影の好きな著者にとって広角側の 1mm は重要なこと、そしてその特徴とする天体撮影 (「星空夜景」、「星空軌跡」、「星空インターバル動画」) の機能はとても魅力に映ります。

### 【[Lumix DMC-LX7](#)】

“[COOLPIX P330 Maniac](#)”で書いたように Lumix DMC-LX7 は『[月刊天文ガイド](#)』(2013 年 2 月) で「現在もっとも天体が写る最強のコンパクトデジカメ」と書かれ、実売価格も魅力です。

### 【[STYLUS XZ-2](#)】

著者の建物撮影の用途には広角が足りませんが、STYLUS XZ-2 (Olympus、2012 年 10 月 26 日発売) は 1200 万画素 1/1.7 型

CMOS センサーで 35mm 判換算 28～112mmF1.8(W)～F2.5(T) という明るいレンズと実売価格が少し気になりました。

### 【FUJIFILM XQ1】

FUJIFILM XQ1 は前述の他機に比してセンサーサイズが大きくローパスレス構造が魅力です。そしてFUJIFILM X-M1 とFUJIFILM XQ1 の画像サンプルを比較し、「流石、X-M1 はAPS-C サイズ、XQ1 と比較すると差がある」と感じました。しかし、著者が 2013 年に入手した PENTAX K-5lls を考えると「カメラのサイズ・質量と稼働時間は反比例する」を実証している状況で、「メモ用カメラに APS-C サイズの画質を求めるのは諦めよう」となりました。建物撮影が好きで広角側は 35mm 判換算 24mm が欲しいところですが、FinePix F900EXR で譲歩の実績があります。F1.8 の明るいレンズが暗い条件での撮影で助けになるのは間違いなく、AF で合焦しにくい被写体に対して MF が使えることも助けになります。ホットシューがないことは全く気になりません。そこでメモ用カメラという本来の目的にフォーカスし、その画質向上を図るため、FUJIFILM XQ1 を入手することにしました。

### (3) FUJIFILM XQ1 の特徴

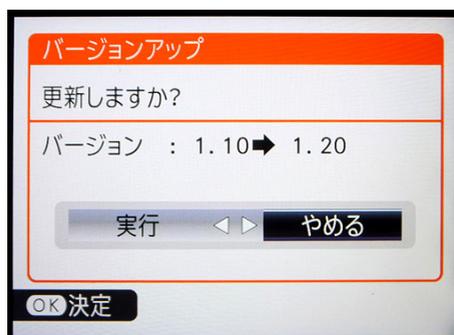
著者はメモ用カメラとして FinePix F シリーズの F11 より使用してきました。F11、F31fd は F2.8～F8 (広角端から最大 10 段) の絞り優先 AE を使えましたが、F100fd、F200EXR では ND フィルターの有無による 2 段階の絞り、F300EXR、F900EXR は ND フィルター (ND4 相当) と絞り穴を組み合わせた 3 段階の絞りとなりました。FUJIFILM XQ1 は久し振りに絞りが細かく設定できるメモ用カメラとなりました。

FUJIFILM XQ1 は [2013 年のグッドデザイン賞](#)と [iF DESIGN AWARD 2014](#) を受賞しています。



#### (4) ファームウェアのバージョンアップ

FUJIFILM XQ1 の Web サイトで最新のファームウェアが「Wi-Fi ボタンの長押しで PC AutoSave を行った場合、画像の送信途中で稀にカメラが動作しなくなる現象を改善しました。」などの修正が行なわれた Ver.1.20 であることを確認し、入手した XQ1 が Ver.1.10 だったため、バッテリーをフル充電して[ファームウェアのバージョンアップ](#)を行ないました。その後、富士フィルムからファームウェア更新のメールとして「Windows10 搭載のパソコンと本機を USB 接続した際にカメラ内の画像をパソコンに転送できない現象を改善しました。」が入り、Ver.1.21 に更新しました。



## (5) [FinePix F900EXR](#)とFUJIFILM XQ1 の比較

メモ用カメラとして常時携帯している FinePix F900EXR (有効画素数 1600 万画素 1/2 型)、PC ディスプレイで等倍で見て気持ちのよい画質から画像サイズ S4:3 (2304×1728) を常用としています。そして 20 倍ズームの特徴を活かして記録したいものに切り取るように使っています。ただ、著者は広角で撮影する場合も多く、周辺画質が甘くなるのが気になっていました。甘くなる原因は 20 倍のズームレンズを F900EXR のサイズに納めるため、素の光学系は歪曲収差が大きいのを画像処理エンジンで歪曲収差を強力に補正していて、ある意味、情報の無いところに情報を補間している状態のため、これが画像の甘さにつながっていると考えられます。

比較的によく使う焦点距離での画質向上を狙って、光学ローパスフィルターレスの FUJIFILM XQ1 (有効画素数 1200 万画素 2/3 型) を入手しました。次に両機の解像度、ダイナミックレンジを比較します。



FinePix F900EXR (上)、FUJIFILM XQ1 (下)

## ■ 解像度

### 【FinePix F900EXR】

FinePix F900EXR の最大記録画素数 16M では建物を広角端で撮影したものを等倍でトリミングした画像のように、石の継ぎ目などの線の周囲にノイズのようなものが生じ、また、画像の周辺の部分では 1 枚 1 枚のタイルが識別できない画像となっています（前述のようにこのレンズサイズで高倍率ズームを実現するため、歪曲収差補正が強くかけられている影響と推定）。メモ用カメラとして記録画素数は 4M（2304×1728）に設定することで画像中央の継ぎ目などのノイズ感はなくなり、画像の周辺部は甘い描写になりますが、レポートや blog 用として伝えたいものを中央に配置したり、画像サイズ 1024×768 画素や 512×384 画素を用いる分には実用上、問題ないと考えています。



ISO 100, F5.6, 1/350 秒



中央部



右端

## 【FUJIFILM XQ1】

FUJIFILM XQ1 を画像サイズ 12M で撮影した画像を示します。XQ1 の画像、最大記録画素数でも PC ディスプレイで等倍で見られるレベルで、画像周辺の画像は若干、甘くなりますが、タイルの 1 枚 1 枚が識別できるレベルです。XQ1 も FinePix F900EXR と同様、歪曲収差補正がかけられていると思いますが、ズーム倍率が低いため、その補正の程度は F900EXR に比して軽微で、また、XQ1 は広角側で若干、たる型の歪曲収差を残す画像処理設定としていることも解像度の面ではプラスに働いていると考えられます。

これより、XQ1 のズーム倍率の低い分、記録画素数を M (2816×2112) あるいは L (4000×3000) に設定して、トリミングを積極的に活用することでメモ用カメラの用途に対応させています。



ISO 100, F5.6, 1/350 秒



中央部



右端

## ■ ダイナミックレンジの比較

FinePix F900EXR (1/2 型 (6.4mm×4.8mm) , 有効画素数 : 1600 万画素) に対して FUJIFILM XQ1 (2/3 型 (8.8mm×6.6mm) , 有効画素数 : 1200 万画) 、 1 画素の面積は単純計算ですが、約 2.5 倍となり、ダイナミックレンジの拡大の効果が気になります。そこで三四郎池の石橋を被写体に各機の撮影モードを P に設定し、最大記録画素数でダイナミックレンジ 100% , 200% , 400% (ISO 100, 200, 400) に変えて撮影してみました。

両機とも石橋越しの対岸の樹がダイナミックレンジ 100% では白トビしていたのが 400% になると色が乗ってくるのがわかります。F900EXR と XQ1 の比較では、XQ1 の画像の手前の池がより暗く表現されていることがわかります。そして石橋越しの対岸の樹の描写について XQ1 の方がディティール感を残しているのがわかります。アバウトな比較撮影実験ですが、XQ1 によりダイナミックレンジ拡大の効果が得られたとってよいのではないかと思います。なお、常用のダイナミックレンジの設定は F900EXR と同様、XQ1 も AUTO としました。

【FinePix F900EXR】



ダイナミックレンジ 100% (100、F3.5、1/30 秒)



ダイナミックレンジ 200% (200、F3.5、1/56 秒)



ダイナミックレンジ400% (400、F3.5、1/110 秒)

【FUJIFILM XQ1】



ダイナミックレンジ 100% (100、F1.8、1/125 秒)



ダイナミックレンジ 200% (200、F1.8、1/250 秒)



ダイナミックレンジ400% (400、F2.5、1/250 秒)

## ■ 液晶モニター

FinePix F900EXR、写した時の（記憶の中の）液晶モニターの画像と PC モニターで見る画像を比較し、（例えば明るくて）写っていないと思えたものが写っているのを確認し、これをフィードバックして「液晶モニターで判別できないけれど写っているだろう」という勘を養って撮影している状態といえます。

三四郎池で FinePix F900EXR と FUJIFILM XQ1 の比較撮影で、F900EXR の液晶モニターでは表示されていないものが XQ1 の液晶モニターでは表示されていることに気付かされました（液晶モニターのモニター明るさは標準設定）。共に高コントラストで明るく広視野角のプレミアムクリア液晶とする「3.0 型 TFT カラー液晶モニター約 92 万ドット」を装備していますが、単純に液晶モニターのモニター明るさのデフォルトの設定が XQ1 の方がマイナス側になっているというレベルでなく、XQ1 の方が表示能力が高いように思えてなりません。

XQ1 の撮影モード M における「マニュアル時モニター露出反映」の機能、ホワイトバランスの AUTO の中の WB シフトの機能など、この液晶モニターの性能もあって実現されているように思われます。

## (6) FUJIFILM XQ2 の入手



2014年10月、FUJIFILM XQ1のWebサイトで「本製品は、生産終了いたしました。」を見ることになりました。8月下旬、実売価格が一時、大幅に下がったことから薄々と感じていましたが、公式に表示されるとやはり少し寂しいものです。富士フィルムに関係する方から「販売数量を低く見積もって製造したため、予定より早く在庫がなくなり、生産終了の表示が早く行なわれた」と聞きました。

FUJIFILM XF1の発表は2012年10月9日、FUJIFILM XQ1の発表は2013年10月18日から、2014年10月時点で「そろそろ後継機種の発表」と考えたのですが、実際にFUJIFILM XQ1の後継機のXQ2が「X最軽量206gのコンパクトボディの中に、Xテクノロジーを詰め込んだ「パーフェクト・スモール」[FUJIFILM XQ2](#)」。フジノン製レンズ、新フィルムシミュレーション、コントロールリング、Xの高画質、高速レスポンス、快適な操作性。ポケットの中に、いつでもXクオリティを」として発表されたのは2015年2月5日でした。

FUJIFILM XQ2の新機能としてピントが合っているエリアを自動的に最大9点表示する「マルチターゲット オートエリア AF」、「フィルムシミュレーション」に深みのある色合いと豊かな陰影の写真表現が可

能な「クラシッククローム」モードの搭載が特徴となっています。

[FUJIFILM XQ2](#)の生産終了を2015年12月にそのWebサイトで知り、[FUJIFILM X70](#)が登場し、[FUJIFILM X30](#)が生産終了となってXシリーズの撮像素子は全てAPS-Cサイズとなりました。

近くのケースデンキに立ち寄ったらFUJIFILM XQ2が店頭品処分として17,360円(税別)で販売されていて外観、レンズ、動作チェックをし、特に気になる点は認められなかったため、「FUJIFILM XQ1はその明るいレンズ、小型・軽量、画質の良さでメモ用カメラとして重宝している。バックアップ機として欲しい!!」で物欲を抑えられず、3年の延長保証をつけて購入しました。そして[XQ2のファームウェア](#)をVer.1.00からVer.1.01へ更新しました。

FUJIFILM XQ2は[2015年のグッドデザイン賞](#)と[iF DESIGN AWARD 2016](#)を受賞しています。

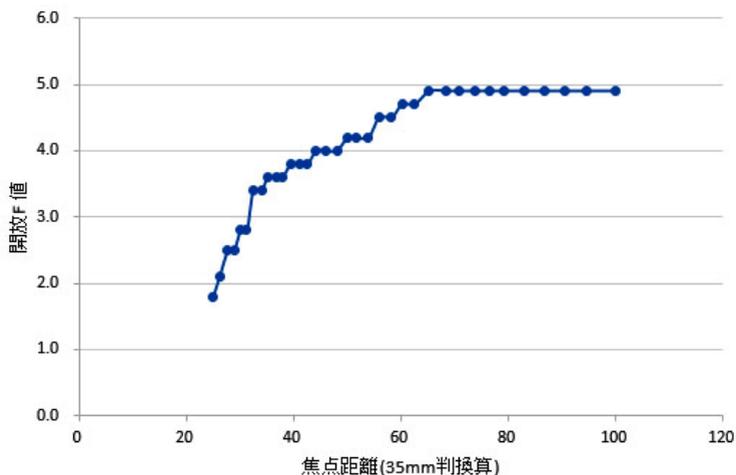


## 2. つかいこなし

FUJIFILM XQ1 は次の設定を標準として著者は使用しています  
(注：XQ1 について書いた本章の内容は XQ2 にほぼ共通します)。

画像サイズ：M4:3 (2304×1728)；撮影枚数優先。L4:3 も使用  
画質モード：N (初期設定のまま)  
ISO 感度：AUTO(800)  
ダイナミックレンジ：AUTO (初期設定のまま)  
撮影モード：P ；必要に応じて変更  
撮影画像表示：拡大 ；撮影した画像の素早いチェックのため  
AF 補助光：OFF ；節電のため (マナーモードも積極的に併用)

### (1) 焦点距離と絞り



FUJIFILM XQ1 の焦点距離 (35mm 判換算) と開放絞りをグラフに示します (詳細は表 1 参照)。XQ1 のレンズの明るさを活用するには広角端を積極的に活用することが必要です。

## (2) ズームレンズと絞り

FUJIFILM XQ1 の電動ズームレンズは他の電動ズーム機と同様、予め設定されたズーム位置（著者調べで下表の 35 点）にステップ的に停止します。撮影モード A, M で設定可能な絞り値は表 1 のようになります。最大撮影倍率はマクロ設定として広角端で仕様の最短撮影距離約 3cm で 35mm 判換算約 0.66 倍が得られます。

表 1 ズーム位置と設定可能な絞り値

倍率	焦点距離	35mm換算	絞り	
			開放	設定可能値
1.0	6.4	25	1.8	2.0, 2.2, 2.5, 2.8, 3.2, 3.6, 4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.0	6.7	26	2.1	2.5, 2.8, 3.2, 3.6, 4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.1	7.1	28	2.5	2.8, 3.2, 3.6, 4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.2	7.4	29	2.5	2.8, 3.2, 3.6, 4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.2	7.7	30	2.8	3.2, 3.6, 4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.3	8.0	31	2.8	3.2, 3.6, 4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.3	8.3	32	3.4	4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.4	8.7	34	3.4	4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.4	9.0	35	3.6	4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.5	9.4	37	3.6	4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.5	9.7	38	3.6	4.0, 4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.6	10.1	39	3.8	4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.6	10.5	41	3.8	4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.7	10.9	43	3.8	4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.8	11.3	44	4.0	4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.8	11.8	46	4.0	4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
1.9	12.3	48	4.0	4.5, 5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.0	12.8	50	4.2	5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.1	13.2	52	4.2	5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.2	13.8	54	4.2	5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.2	14.3	56	4.5	5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.3	14.9	58	4.5	5.0, 5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.4	15.4	60	4.7	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.5	16.0	63	4.7	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.6	16.7	65	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.7	17.5	68	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
2.8	18.1	71	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
3.0	18.9	74	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
3.1	19.6	77	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
3.2	20.3	79	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
3.3	21.2	83	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
3.5	22.2	87	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
3.6	23.2	91	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
3.8	24.2	95	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11
4.0	25.6	100	4.9	5.6, 6.4, 7.1, 8.0, 9.0, 10, 11

### (3) シャッター速度

表 2 撮影モードとシャッター速度

撮影モード	シャッター速度
S, M	30", 25", 20", 15", 13", 10", 8", 6.5", 5", 4", 3", 2.5", 2", 1.5", 1.3", 1", 1/1.3, 1/1.6/ 1/2, 1/2.5, 1/3, 1/4, 1/5, 1/6, 1/8, 1/10, 1/13, 1/15, 1/20, 1/25, 1/30, 1/40, 1/50, 1/60, 1/80, 1/100, 1/125, 1/160, 1/200, 1/250, 1/320, 1/400, 1/500, 1/640, 1/800, 1/1000, 1/1200, 1/1500, 1/1600, 1/2000, 1/2500, 1/3000, 1/4000 <b>【注意】</b> ISO 100 は全てのシャッター速度の設定が可能。 ISO 200 は 15" を含み、それより短い速度の設定が可能。 ISO 250 は 8" を含み、それより短い速度の設定が可能。 ISO 500 は 4" を含み、それより短い速度の設定が可能。 ISO 1000 は 2" を含み、それより短い速度の設定が可能。 ISO 2000 は 1" を含み、それより短い速度の設定が可能。 ISO 4000 は 1/2" を含み、それより短い速度の設定が可能。 ISO 12800 は 1/4" を含み、それより短い速度の設定が可能。

参考：例えば撮影モードが M や S でシャッター速度 30" を使いたい場合は ISO 100 に設定する必要があるように表の ISO 感度に対するシャッタースピードの制限はこれに対応するものといえます。

表 3 絞り値とシャッタースピードが赤で表示される領域

絞り	シャッタースピード (sec)						
1.8	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
2.0	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
2.2	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
2.5	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
2.8	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
3.2	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
3.6	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
4.0	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
4.5	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
5.0	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
5.6	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
6.4	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
7.1	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
8.0	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
9.0	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
10.0	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.
11.0	1/1000,	1/1200,	1/1600,	1/2000,	1/2500,	1/3000,	1/4000.

**【備考】**

1) ISO 400 以上で各絞り値に対して表のようにシャッタースピードが赤く表示される。

FUJIFILM XQ1 のシャッター、FUJIFILM X10 のシャッターと同様、レンズとレンズの間にシャッターがあるレンズシャッター (between-the-lens-shutter) と考えられます。

FUJIFILM XQ1 の使用説明書に「ISO 感度の設定によっては、シャッタースピードの設定に制限があります。」と記され、FUJIFILM のデジタルカメラ Q&A の「ISO 感度を上げるとシャッタースピードの下限が変化する。(対象製品 X10/X20/XF1/XQ1/X-S1)」で「ISO 感度を高く設定し、長時間露光するとノイズが発生しやすくなるため、下限のシャッタースピードを変化させています。設定可能な最長シャッタースピードは下表の通りです。」(表略)と記載があります。表 2 に ISO 感度に対して設定可能なシャッタースピードを示します。

使用説明書の p.45 で「絞り値によっては、シャッタースピードが赤で表示されることがあります。その場合、設定したシャッター速度が得られていないことを示していますが、撮影は可能です。」とされます。表 3 に絞り値と赤で表示されるシャッタースピードを示します。

コンパクトデジタルカメラ (シャッター内蔵の製品)、ミラーレス一眼は、シャッターを開いたライブビューの状態から、シャッターボタンを押すと撮影のためにシャッターが閉じた後、シャッターが開いて撮影開始して所定時間露光させた後、シャッターが閉じて撮影を終え、再度、シャッターが開いてライブビューの状態となって次の撮影に備えます。シャッターの移動速度はほぼ一定と考えられますが、絞り値によって光を遮るのに必要なシャッターの移動距離 (=移動時間) が異なります。低速シャッターでは十分、許容範囲にある時間差ですが、高速シャッターにおいて絞り値によっては『JIS B 7091 カメラ用シャッタ』に示されるシャッタースピードと露出時間の許容値から外れることから、そのような表現がなされたと推定されます (撮影条件 (絞り値) によって高速シャッターでも露出時間の許容値内に納まることから、撮影者の便宜を優先させて高速シャッターの設定を可能とし、メーカーとして後に露

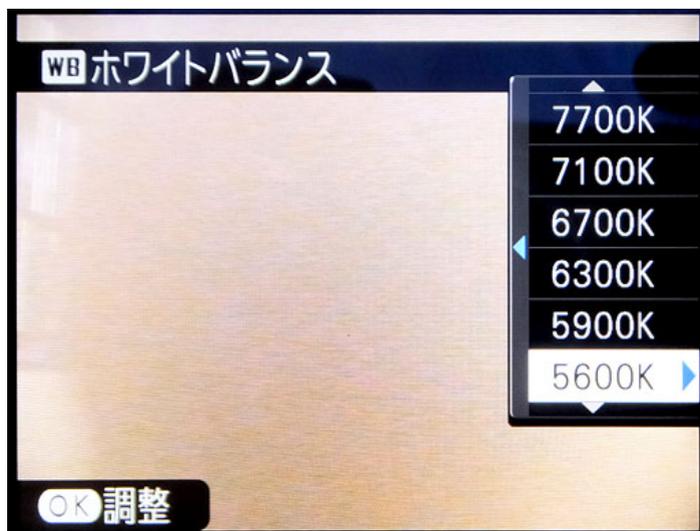
出時間の許容値から外れている部分について「製品不良」と指摘されないため、赤文字にしたと考えられます)。

#### (4) 撮影感度

感度設定の最大 ISO 12800 は FinePix F900EXR と同じですが、F900EXR では記録画素数 4M の設定で PC ディスプレイで等倍で見ても気持ちのよい画質から AUTO (400) を常用しています。XQ1 は「AUTO (800) が常用できるな」と考えています。

撮影感度	AUTO (ISO3200 まで設定可能), ISO 100 / 200 / 250 / 320 / 400 / 500 / 640 / 800 / 1000 / 1250 / 1600 / 2000 / 2500 / 3200 / 4000 / 5000 / 6400 / 12800
------	---

#### (5) ホワイトバランス (色温度)



FUJIFILM XQ1 のホワイトバランスの色温度を細かく設定できる機能、そしてホワイトバランスの AUTO の中の WB シフトの「モニターを見たままで、R (赤) ⇄ Cy (シアン) 方向、B (青) ⇄ Ye (黄) 方

向に±9 段の調整ができ、実際の画像を確認しながらの撮影が可能です。」とする機能、積極的に使いたくなります。ただ、使用説明書では操作方法と色温度に関する簡単な説明があるだけですが、この機能を積極的に活用するには光源の色温度を知りたいくなります。

Web 検索により、Panasonic の『照明設計資料』の『光源の光色と演色性』の中の「表1 商品別演色評価数一覧（代表例）」に各種の光源に関する色温度が示されていることを見つけました。また、この『照明設計資料』のWeb サイト、「照明について深く知りたい」と考える人にとってとてもよいテキストとして使用できます。

ホワイトバランス (色温度)	10000K / 9100K / 8300K / 7700K / 7100K / 6700K / 6300K / 5900K / 5600K / 5300K / 5000K / 4800K / 4500K / 4300K / 4200K / 4000K / 3800K / 3700K / 3600K / 3400K / 3300K / 3200K / 3100K / 3000K / 2950K / 2850K / 2800K / 2700K / 2650K / 2550K / 2500K
-------------------	--

【参考】 光源の光色と演色性 | 照明設計資料 | パナソニック照明設計サポート P.L.A.M. ブラム | 照明器具 | 電気・建築設備エコソリューション | 法人のお客様 | Panasonic  
<http://www2.panasonic.biz/es/lighting/plam/knowledge/document/O107.html>

## (6) 撮影モード

FUJIFILM XQ1 の『使用説明書』(p.48) に撮影モード P でプログラムシフトが使えることが記載されています(但し、内蔵フラッシュは収納状態で、感度設定は AUTO 以外、ダイナミックレンジの設定も AUTO 以外の時)。著者の FUJIFILM XQ1 の主用途はメモ用カメラのため、従来の F シリーズと同様、撮影モード P として、撮影感度を AUTO(800)、ダイナミックレンジ AUTO を常用としています。

撮影モード M は感度設定を AUTO にすることで、PENTAX K-5lls の TAv モードのように使えます。そして撮影モード M で特定の値の感

度に設定した場合、マニュアル時モニター露出反映を「ON」にすることで撮影結果のシミュレーションができます。絞り込み（プレビュー）機構のある一眼レフカメラを思い出させる機能で、積極的にこのモードを使いたくなります。



## (7) 露出補正

FinePix F900EXR の露出補正は±2EV の範囲で 1/3EV ステップで可能ですが、「±2EV では足りない」と思う場面があります。±3EV に拡大された FUJIFILM XQ1 は使い勝手向上です。

## (8) AF フレームのサイズ変更と MF

「フォーカスエリア選択」で表示された液晶モニター上でコマンドダイヤルを回すことで AF フレームのサイズが 50%、75%、100%（標準）、125%、150% の範囲で変更できます。最初、50% の設定で使い始めましたが、被写体によってはピント合わせに時間がかかることもあり、常用は 100% の標準設定とし、ピンポイントにフォーカシングし

たい時に 50%を使うことにしました。そして連続撮影を必要としない時は影画像表示を「画像拡大チェック」にし、撮影直後にプレなどの有無をチェックして必要があれば撮り直しを行っています。

なお、AF で思ったところにピントがあわない時、MF が使えるのは安心です。MF 時、セレクトダイヤルのマクロ側を押すとワンプッシュ AF として使用でき、MF 操作を素早くできます。

### (9) コントロールリングをズームに割り当て

本機のデザイン面のサイズの制約から FUJIFILM X20 のようなダイレクトな操作 I/F はありませんが、FUJIFILM 機に慣れていることから操作に迷うことはありません。そして E-Fn ボタンによる背面各ボタンの機能の割り当てを切り替えることができるのは便利です。

撮影モード P を用いることが多いですが、E-Fn ボタンで早速、コントロールリングをズーム用に割り当てました。これは前述しましたが、過去の富士フィルム機との付き合いからシャッターボタンの周囲にズームレバーを配置しているモデルでは、ズームレバーの操作に対するレンズ動作の不調が生じることが多いため（接点の経年劣化?）、これを回避する意味もあります。

### (10) 液晶モニターの表示設定

XQ1 を使用する時の私の液晶モニターの表示設定は、水平度をチェックできるように「カスタム」を常用としています。なお、「画面のカスタマイズ」のヒストグラムのチェックを外して非表示とすることで、ヒストグラムの部分で被写体が隠されないように、また、ヒストグラム表示のためのエネルギー消費の低減を図っています。なお、FUJIFILM XQ1 の液晶モニターの表示デザインは FinePix F900EXR と比較すると、X シリーズらしく、スクエアな感じのものとなっています。



#### (11) 最大撮影枚数を増やす

FinePix F11、FinePix F31fd、フル充電すれば 500 枚を超える撮影が可能で、撮影枚数を気にしないで撮影でき、メモ力カメラとして重宝していました。この特性はシャッターチャンスへの強みにもなります。

FUJIFILM XQ1 を入手してフル充電し、SDHC カードに 16GB の TOSHIBA EXCERIA Type2 CLASS10 UHS-I 対応の SD-H16GR7WA6 を使い、記録画像サイズ L4:3 とし、しばらく撮影モード SR+(アドバンスド SR オート;常にピント合わせを続けるため、バッテリーの消耗が早い) を使用した後、AUTO で撮影したところ、仕様上の標準撮影枚数の約 240 枚を超え、318 枚を撮影できました。

私の FUJIFILM XQ1 の主用途はメモカメラのため、常用の記録画素数は M4:3 とし、必要に応じて L4:3 を使うことにし、パフォーマンス設定は「節電」、表示設定の撮影画像表示は「画像拡大チェック」、超解像ズームは「OFF」、そしてマナーモードは「ON」、撮影モード P で 457 枚が撮影できました。

最大撮影枚数はカメラの設定、使用するSDカード、温度環境など環境条件、被写体などで変化すると考えられ、また、XQ1の開放絞りのF1.8を活かすため、ズーム操作がFinePix F900EXRと比して少ないこともあるかもしれませんが、400コマを越えて撮影できるのはメモ用カメラとして心強いものがあります。

富士フィルムのQ&Aに「[Q：X20で撮影できる枚数を270枚よりも増やしたい。](#)」で記載された内容を含め、表4にまとめます。

表4 撮影枚数を増やす設定

大項目	メニュー		
セットアップ	消費電力設定	パフォーマンス	節電 自動電源OFF→2分
	マナーモード	ON	(撮影条件によってマナーモードを「OFF」)
	超解像ズーム	OFF	
撮影メニュー	フォーカスモード	AF-S	
	顔キレナビ	OFF	
	画像サイズ	M4:3 (常用。撮影目的によりL4:3も使用)	
撮影モードダイヤル	「P・S・A・M・オート・SP」のいずれか		

**【Memo】 広角側のタル型の歪曲収差への対応**

FUJIFILM XQ1、広角端で被写体によってはタル形の歪曲収差が気になる場合があります。そのような場合、Photoshopのレンズ補正のゆがみを補正を適用しています（広角端で+3.0を目安として画像を見ながら処理）。

### 3. アクセサリーなど

[FUJIFILM XQ1 の別売りアクセサリ](#)\*として、レザーケース BLC-XQ1B (黒)、BLC-XQ1BW (茶)、防水プロテクター WP-XQ1 (動物写真家の[小原玲氏の blog](#) で関連記事あり)、充電式バッテリー (リチウムイオンタイプ) NP-48、バッテリーチャージャー BC-48、リモートリリース RR-90、記録メディア (FUJIFILM) があります (\* : FUJIFILM XQ2 のアクセサリも共通)。

#### (1) カメラグリップ、液晶保護フィルム



FUJIFILM XQ1 用



FUJIFILM XQ2 用

レザーケース BLC-XQ1 には右手側に指掛りとなる凸部があり、このレザーケースと組み合わせることを前提に XQ1 は前面のグリップ部を設けない形でデザインされたことが推測されます。XQ1 の両端のストラップ取り付け部を使ってネックストラップを付け、首から XQ1 を架けるのも悪くありませんが、「いかにも・・・」という感じが少々、気恥ずかしく、他のコンパクトデジタルカメラと同様、カメラケースに入れて出し入れてして使うことにしました。そこで片手撮影時の安定性を高めるためにフリップバックカメラ グリップ G3 (型番 : FBG3、HAKUBA) を入手し、取り付けました (FUJIFILM XQ2 も同様)。



フリップバッグカメラ グリップ G3 を取り付けた FUJIFILM XQ1

## ■ 液晶保護フィルム

FUJIFILM XQ1、XQ2 の液晶保護フィルムとして XQ1/XF1 専用の液晶保護フィルム DGF-FXQ1 (HAKUBA) を取り付けました。これはクリーニングペーパー付で気泡が入ることなく、液晶面にきれいに貼れることによります。

## (2) メモリーカード



[XQ1 対応情報](#) で FUJIFILM XQ1 は FUJIFILM/SanDisk 社製の SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードが推奨されています。そして HD 動画、ハイスピード動画を撮影する時は、SD スピードクラス 10 以上のメモリーカードの使用が指定されています。FUJIFILM XQ1 に 16GB の SDHC UHS-I Card EXCERIA SD-H16GR7WA6 (TOSHIBA)、そして FUJIFILM XQ2 には安価となったことから 32GB のもの入手しました。

## (3) リモートリリース、ワイヤレスコントローラ

デジタルカメラの高感度撮影での画質向上と手ブレ補正機能により、明るさ的に厳しくても壁などに体を預けてタイマー2 秒を使って撮影

すればメモ用カメラの用途として満足できる画質が得られることがほとんどで、三脚、リモートリリースの必要性は低下しました。しかし、「備えあれば・・・」です。FUJIFILM XQ1 用のリモートリリースはそのUSB[Micro-B]端子に対応したRR-90です

著者はFinePix HS30EXR用にリモートリリースRR-80-W（USB [Mini-B]端子）を入手しました。リモートリリースがRR-80AとなるFinePix HS50EXRを入手した際はamazon.co.jpで変換ケーブルを入手し、RR-80-WをHS50EXRに対応させました。そしてXQ1に対しても「RR-80-Wがあるのだから」と生来の“MOTTAINAI”精神からUSB [Mini-B]オス端子をUSB [Micro-B]オス端子に変換するケーブルを」となり、amazon.co.jpでFUJIFILM リモートコントローラー用 ケーブルアダプター（X-M1, X-E2, X-A1, XQ1 変換用アダプター）を注文し、このケーブルアダプター（JJC Cable-K2R）でRR-80-WをFUJIFILM XQ1で使用できるようにしました。



## 【注記】 ケーブルアダプターの選定上の注意



左：MPA-MFMB (ELECOM)  
右：Cable-K2R (JJC)

最初、近くの家電量販店で PA-MFMB(ELECOM) を入手して RR-80-W を XQ1 に接続しましたが、機能しませんでした。

動作確認のとれている製品の選択が重要です。

## 【ワイヤレス マルチタイマーコントローラー-JJC WT-868】



JJC WT-868 と FUJIFILM XQ1 を組み合わせた姿

ワイヤレスマルチタイマーコントローラー-JJC WT-868 (STOK) はワイヤレスコントローラーと受信機で構成され、通常の撮影の他、1)

遅延タイマー（通常のタイマーと同じ）、2) バルブ撮影（カメラ側が対応していることが必要；リモートリリースのようにリリースボタンを押している間、シャッターが開くのではなく、コントローラーで設定した時間シャッターが開く）、3) インターバルタイマー、4) 撮影回数などの設定に対応します。また、受信機を経由せず、専用ケーブルを用いてコントローラーとカメラを直接、接続して操作することが可能です。

受信機とカメラを各カメラ向の JJC リモートコントローラー用ケーブル（XQ1 は FUJIFILM X-M1 と同じ JJC Cable R for FUJIFILM F3）で接続してワイヤレスコントローラーでの撮影を可能となります。XQ1 は受信機を取り付けるシューがないため、ライトブラケットタイプ LBL-20（LPL）を利用しました。

#### (4) LED ライト



FUJIFILM XQ1 と LD-1000 (Nikon)

「拡散板を発光部に装備し、均一で柔らかな光による自然な質感描写

が可能で、テーブルフォトなどの近接撮影に最適」とする Nikon の小型 LED ライト「LD-1000」(Nikon、2013 年 10 月発売)を COOLPIX P330、そして FUJIFILM XQ2 で使用するために入手（三星カメラで 8,800 円（送料込み））しました。

LD-1000 に電池を入れ、付属のブラケット SK-1000 に固定ネジで取り付け、LD-1000 を点灯して FUJIFILM XQ2 の広角端での液晶モニター表示の端部の周辺減光が同程度になるように LD-1000 の取り付け方向を調整しました。LD-1000 の照射領域は上下：55°、左右：72° とされますが、35mm 判換算 50mm の焦点距離で周辺減光が目立たず、撮影できることが確認されました。

## (5) カメラケース



FUJIFILM XQ1 と Geneva 30 (Lowepro)

FUJIFILM XQ1 にはアクセサリとして専用レザーケースがありますが、「将来、特価販売となったら再考・・・」として COOLPIX P5100 用に入手した内装クッションが厚く、保護性の高い Geneva 30 (Lowepro) と組み合わせました。ネックストラップでこのケースを首にかけ、カメラとこのケースをコイルストラップで結び、仮に手を滑らせて XQ1 を落としそうになっても防げるようにしています。

### 【XQ1 用速写レザーケース BLC-XQ1】



出先近くにある家電量販店のカメラコーナーに特売の平置き台があり、XQ1 用速写レザーケース BLC-XQ1 が4,260円のところ、1,980円で売られていました。「FUJIFILM XQ1, XQ2 にはグリップをつけているし、SD カードの出し入れが面倒になるからこのレザーケースを使うことはないな」と私の理性さんの声はしたのですが、「愛用機だから使わなくてもオプションのレザーケースを揃えておこう」と全く合理的でない私の物欲さんの声が優勢となり、入手してしまいました。

## (6) ホワイトバランスのカスタム設定用アクリル板



価格コムの [FinePix F200EXR のクチコミ掲示板](#)でコーミンさんが『[Komin's Photo Blog](#)』で乳白色のアクリル板を用いたWBのカスタム設定を紹介されているのを知り、300mm×300mm×厚2mmの乳白色のアクリル板（アクリライト、三菱レイヨン(株)）から50mm×100mmのカスタムホワイトバランス設定用の板を製作しました。

これをFUJIFILM XQ1のカスタムホワイトバランスの設定に流用しています。使用方法はこの乳白色のアクリル板越しにレンズで光源を見て（太陽光の場合は太陽を横の位置にした感じ）、カスタムホワイト設定の手順で設定が可能です。

## (7) フラッシュ光のケラレ改善対策

FUJIFILM XQ1 のフラッシュの撮影可能範囲（感度 ISO AUTO 時）は広角約 50cm～7.4m、望遠約 80cm～2.7m ですが、使用説明書の主な仕様のフラッシュの注記として「ただし近距離では、レンズの影が映ることがあります」と記載されるように広角端で撮影距離によってレンズ先端によるフラッシュ光のケラレに気付くことがあります。

(5)で紹介したカスタムホワイトバランス用のアクリル板をフラッシュの下側に位置決めし、アクリル板でフラッシュ光が上方に反射されるように斜めにしてフラッシュを発光させることで、フラッシュ光のケラレが目立たなくなりました。

続いてストロボディフューザー「影とり」 SDF-26（ケンコー・トキナー）、レンズ（レンズフード）の大きさは 50～100mm 直径までとされますが、孔にレンズを通して「影とり」を左手で支えて撮影したところ、同様にフラッシュ光のケラレが目立たなくなり、加えてフラッシュによって生じる影も目立たないものとなりました。

（注：本記述は「4. 撮影領域の拡大」の実施前のものです。）



SDF-26（ケンコー・トキナー）



上：FUJIFILM XQ1 単体、 下：アクリル板との組合せ



上：FUJIFILM XQ1 単体、 下：「影とり」と組合せ

## (8) 三脚

FUJIFILM XQ1、著者の用途から三脚を用いることは殆どありませんが、軽量なことから、”[Tripod Maniac](#)”で解説の持ち運びの負担にならない 1kg を切る重量で搭載機材の最大重量 2kg、エレベータ下部を外して最低高 16.2cm のローポジション撮影に対応の、パイプ径 20mm の主要部品が合金製で剛性の高い SPRINT PRO (縮長 48cm、重量 0.89kg、SLIK) で十分と考えています。なお、私の SPRINT PRO は雲台を 2WAY 雲台 SH-703 に交換して SPRINT EX II 相当にしています。



## 4. 撮影領域の拡大

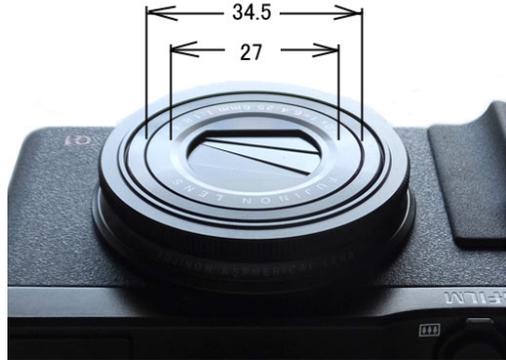
### (1) ワイコン DW-6 とフィルターネジの付加

(注：改造は自己責任であることをご了解ください)



DW-6 (RICOH)

倍率：0.79倍、レンズ構成：  
3群3枚、取付け径：43mm、  
全長：22.9mm、最大径： $\phi$   
60mm、重さ：約 110g



FUJIFILM XQ1 を入手時、COOLPIX P330 改と組合せて使用の 0.79 倍のワイドコンバージョンレンズ DW-6 (RICOH) を XQ1 のレンズ前に手で支えて位置決めし、ケラレなく使用できることを確認しました。そして XQ1 のズームレンズの 2 段の鏡胴の内側の鏡胴直径は約 34.5mm、レンズバリアの周囲の段付き部の直径は約 27mm であることを確認し、八仙堂のステップアップリング 28-43mm を加工して取り付け、XQ1 を 43mm フィルターネジ対応とする方法を考えました。FUJIFILM XQ2 の入手を機にこの改造を実行しました。



ステップアップリング 28-43mm (八仙堂)

## 【ステップアップリングを利用しフィルターネジ付加の手順】



金ヤスリをかける前のテープ養生



28mm ネジ側を削った状態



強力両面接着テープを貼り付け



ズームレンズ先端に加工したステップアップリングを貼り付け

DW-6 を組み合わせる場合、DW-6 の約 110g の荷重がレンズ先端にかかるのはレンズ駆動系の寿命に影響し、接着面積は多いとはいえな  
いことから不用意に力を加えると剥がれてコンバージョンレンズごと、  
落とす危険性もあります。そこで DW-6 の取り付けは FUJIFILM XQ1  
を POWER ON にしてズームレンズが繰り出した状態で行ない、広角  
端限定の使用とし、DW-6 を手で支えてズームレンズにあまり荷重が  
かからないようにして撮影しています。FUJIFILM XQ1 と DW-6 の組合  
せで得られた 35mm 判換算約 20mm の画質、「これなら充分、使用で  
きる」です。

なお、**フラッシュ光がステップアップリング 28-43 の付加でケラシ**  
を生じ、フィルター類などをつけていない状態でケラシが生じなくなる

のはズーム倍率 1.5 倍（35mm 判換算 37mm）以上となります（フィルター類をつけた場合、ケラレの生じないズーム倍率はさらに高くなります）。ステップアップリングの取り付けは、このデメリットを理解した上で行う必要があります。



FUJIFILM XQ1（改）とワイドコンバージョンレンズ DW-6（RICOH）の組合せ



FUJIFILM XQ1 単体の広角端 (35mm 判換算 25mm)



FUJIFILM XQ1 と DW-6 を組み合わせた広角端 (35mm 判換算 20mm)

## 【DW-6 を手で支えて使用する方**法**】

FUJIFILM XQ1 のズームレンズに負担がかからないようにDW-6を手で支えてレンズに位置決めして撮影するアイデアを紹介します。



DW-6 の取付けネジ側



ステップアップリング 40-43

## [DW-6]

DW-6 の XQ1 側の鏡筒と、XQ1 のレンズ先端が直接、接触することを防ぎ、かつ、DW-6 と XQ1 のレンズ間距離を適正とするためのクッション材（接着テープ付）を DW-6 の直径 31～37mm の間の面に等間隔で 4 ヶ所貼り付けます。後にレンズ間距離の調整を行うため、最初は厚さ 1mm 程度のクッション材を貼り付けます。

## [ ステップアップリング 40-43 ]

DW-6 の取付けネジの内側の凹部の内径は約 37mm で、XQ1 のレンズ先端（直径約 34.5mm）はこの間に納まります。DW-6 のカメラ側のレンズは一段奥まった位置にあり、XQ1 のレンズを DW-6 のレンズ中心となるようにガイドすれば DW-6 のレンズと XQ1 のレンズ鏡筒が接触してレンズを痛める心配はありません。

ステップアップリング 40→43mm（八仙堂）の 40mm 側に  $\phi 1$  のキリ孔をあけます。このキリ孔にワイコンを手から滑らせて落とすことも防ぐためのハンドストラップを取り付けます。そして 40mm の内径部（約 37mm）に XQ1 のレンズ中心と DW-6 のレンズ中心を合わせるためのガイド用の 1mm 厚のクッション材を貼り付けます。

## [ 調整 ]

DW-6 にステップアップリングを取り付け、DW-6 を手で支えて FUJIFILM XQ1 のレンズ先端に位置決めして撮影開始となりますが、この段階では XQ1 と DW-6 が最適距離となっていません。そこで XQ-1 と DW-6 の組合せによる撮影結果を確認し、必要に応じて上記の DW-6 に貼るクッション材の厚さを、良好な撮影結果が得られるように調整します。

## (2) クローズアップレンズ



FUJIFILM XQ1 広角端でのマクロ撮影



FUJIFILM XQ1 望遠端でのマクロ撮影



AC CLOSE-UP LENS No.5



AC CLOSE-UP LENS No.5 組合せて  
FUJIFILM XQ1 望遠端でのマクロ撮影

XQ1 の最大撮影倍率は広角端で最短撮影距離約 3cm で 35mm 判換算約 0.66 倍となりますが、被写体にレンズの影がかかりやすく、実用的とはいえません（左上の画像）。

著者保有の取り付けネジ径 55mm の AC CLOSE-UP LENS No.5 (Kenko) をステップアップリング 43-55mm で 43mm フィルターネジ対応となった XQ1 と組み合わせて望遠端で撮影し、撮影距離約 20cm 弱で 35mm 判換算約 0.66 倍のマクロ撮影ができました（右下の画像）。クローズアップレンズ No.5 との組合せはワーキングディスタンスの面で有効活用できます。なお、ズームレンズにクローズアップレンズの荷重があまりかからないように注意して使用が必要です。

## ■ スーパーマクロレンズ MSN-202 (Raynox)



FUJIFILM XQ1 改にステップダウンリング 43-37 でスーパーマクロレンズ MSN-202 (Raynox) を組合せてみました。XQ1 の望遠端で作例のように約 30mm の距離から約 15mm (35mm 判換算約 2.4 倍) が撮影できましたが、画像周囲が甘く、糸巻き型の歪曲収差も確認され、XQ1 への MSN-202 の組合せは適しているとはいえません。

### (3) フィルターの組合せ



FUJIFILM XQ1 改のフィルターネジサイズに対応する PL フィルターとして[サーキュラー PL フィルター CF-CPL43D \(HAKUBA\)](#) があるのを確認し、ヨドバシ Akiba で入手しました (1,620 円)。以下に PL フィルターの効果を比較した作例を示します。

## 【PL フィルターの効果比較】



上：PL フィルターの効果少、下：PL フィルターで空の青さを強調

#### (4) ラバーフードの組合せ



〔広角側〕



〔望遠側〕

43mm フィルターネジ対応に改造した COOLPIX P330 のフードとして [HOYA マルチレンズフード](#) 55mm の先端にシール容器から切り出した四角枠を取り付けたものを、ステップアップリング 43-55 を介して取り付けています。43mm フィルターネジ対応となったFUJIFILM XQ1 にもこれを流用しました。

#### Memo：ガラス越しの撮影に際してのラバーフードの組合せ



ガラス越しの撮影で撮影者側の光がガラス面に反射するのを低減するため、ラバーフードをガラス面に密着する方法が有効です。また、フードだけで対処できない 2 重ガラスでの反射の低減に PL フィルターが活用できます。そこで

(3) の PL フィルターにステップアップリング 43-55 をつけて上の 55mm の HOYA マルチレンズフードを組み合わることにしました。

## (5) コンバージョンレンズ (実験)



フィッシュアイコンバーターFC-E8



ワイドコンバーターWC-E63



テレコンバーターTC-E2

“[COOLPIX P330 Maniac](#)” で 43mm フィルターネジ対応とした COOLPIX P330 と各種コンバージョンレンズとクローズアップレンズの組合せについて解説しました。43mm フィルターネジ対応となった FUJIFILM XQ1 も COOLPIX P330 改と組み合わせたコンバージョンレンズなどと組合せが考えられます。しかし、COOLPIX P330 の改造はそのズームレンズにコンバージョンレンズなどの荷重がかからない構造で問題はありませんが、(1)の FUJIFILM XQ1 にフィルターネジを付加した方法ではズームレンズに直接、コンバージョンレンズの荷重がかかるため、そのような使用方法を想定していない **XQ1 のズームレンズには過負荷** となることは明らかです。

そこで「実験」として COOLPIX P330 と組み合わせた取り付けネジ径 28mm の次のコンバージョンレンズをステップダウンリング 43-28mm を使って前述の DW-6 と同様に手で支えて XQ1 のズームレンズに荷重があまりかからないように注意して撮影してみました。

### ■ フィッシュアイコンバーターFC-E8 (Nikon)

FUJIFILM XQ1 を広角端にして 0.21 倍の FC-E8 を取り付け、スポット測光に設定して次の円周魚眼の作例が得られました。最大記録画素数 L (4000:3000) で撮影した画像の中央部のトリミングした画像を示しますが、解像度の低下が認められました。ズームしてより大きな円周魚眼の画像とすると画像周辺の解像度の低下が認められました。FC-E8 との組合せ、リサイズして用いる分には利用できると思いますが、やはり、これまで使用の FinePix F31fd や COOLPIX P5100 のように広角の画角の狭いものとの組合せが適しているといえます。

### ■ ワイドコンバーターWC-E63 (Nikon)

FUJIFILM XQ1 を広角端にして 0.63 倍の WC-E63 を取り付け、35mm 判換算約 16mm の広角として撮影した画像、次のようにケラレを生じました。ケラレの部分をトリミングして外して使用する場合、35mm 判換算 21mm 程度が得られます。記録画素数 L (4000:3000) で撮影した画像を見ると解像度の低下が認められました。

### ■ テレコンバーターTC-E2 (Nikon)

FUJIFILM XQ1 を望遠端にして 2 倍の TC-E2 を取り付け、35mm 判換算 200mm の望遠で撮影した画像、ケラレはなく、記録画素数 L (4000:3000) で撮影した画像に解像度の劣化は認められません。なお、その重さ (約 150g) から「実験に限定」という気持ちは変わりません。



フィッシュアイコンバーターFC-E8 (Nikon) との組合せ



上の画像L (4000:3000) の中央を 512:512 でトリミング



WC-E63 と FUJIFILM XQ1（広角端）を組合せの作例



FUJIFILM XQ1（望遠端）の作例



TC-E2 と FUJIFILM XQ1（望遠端）を組合せの作例

## (6) デジスコ



TS-613 (KOWA: 上) と、TSN-664 (KOWA:下)

“[TS-613 & TSN-664 Digiscoping Maniac](#)” を書いたようにデジスコは著者の関心分野です。「FUJIFILM XQ1 をデジスコとして使えないかな」と気になって適用事例を調べ、[dorayaki-papa](#) さんがFUJIFILM XQ2 と Nikon ED82 を組合せ、「CoolPix P340 よりケラレが生じる範囲が多いがレスポンスが向上」と評価されていること、価格comのFUJIFILM XQ1 のレビューで misochiy さんの[「デジスコ導入」](#)とするスコープとカメラを接続するブラケットを塩ビ管を利用して製作（スポッティングスコープ等の情報はなし）の報告を見つけました。

著者所有の30倍のアイピース TE-14WD を取り付けたスポッティングスコープ TSN-664 を約800m離れた煙突に向けてフォーカスをあわせ、FUJIFILM XQ1 を望遠端（35mm判換算100mm）にしてTE-14WDのレンズに手持ちで近づけ、撮影してみました。その結果、



作例のように 35mm 判換算 3,000mm でケラレなく、撮影できることが確認できました（画像の左側の黒点は修理から戻ってきた FUJIFILM XQ1 の撮像素子についていた塵で再修理となりました）。

FUJIFILM XQ1 はワイド端でボディ前面からレンズ先端までの距離が約 37.5mm、そしてズームするに従って一旦、短くなり、再び、レンズ長が伸びてテレ端では約 46.5mm となります。レンズ周辺のリング部の最大径は約 53mm（可動リング部の径は約 50mm）、そして 2 段で伸縮するレンズの先端の鏡胴の直径は約 35mm、ボディ側は約 41mm で最大ボディ前面から 25mm の位置に伸びます。スポッティングスコープにカメラを位置決めするブラケットを製作する場合、これを考慮して設計することになります。

43mm フィルターネジ対応とした COOLPIX P330 改とスポッティングスコープ TSN-664(KOWA)は、アウターチューブにアダプターリング TSN-AR43 (KOWA)を取り付けたデジスコ用のアダプターリ

ング TSN-DA1 (KOWA) を介して接続します。43mm フィルターネジ対応にした FUJIFILM XQ1 もこの TSN-DA1 を用いれば用意にスポッティングスコープに接続できますが、XQ1 は付加したフィルターネジの位置からズームレンズにカメラの荷重がかかることになり、また、ズームレバーの操作でズームレンズが伸び縮みし、操作する指先がカメラの機構への抵抗になるため、XQ1 の故障にもつながりかねません。「XQ1 の三脚ネジ穴を利用したブラケットを製作しないとデジスコとしては安心して使えないかな」と思案中です。



TSN-664 (KOWA) と COOLPIX P330 の組合せたデジスコ

#### Memo: 露出補正ダイヤルの不調と修理

FUJIFILM XQ1、約 1 万 4 千枚の撮影で露出補正ダイヤルの操作に対して露出補正がスムーズに設定できなくなりました。購入から 1 年を過ぎていましたが、ヨドバシカメラで 60 ヶ月延長保証をしていたため、早速、ヨドバシ Akiba に持ち込み、修理しました。

## 5. まとめ

FUJIFILM XQ1 のローパスフィルターレスの 2/3 型 X-Trans™ CMOS II センサーと画像処理エンジン EXR プロセッサー II の組合せで得られる画像の解像度は期待どおりのものでした。それまでローパスフィルターを用いたカメラでは PC ディスプレイで見て気持ちのよい画質という観点から最大記録画素数を用いませんでした。XQ1 では積極的に最大記録画素数の設定で撮影するようになり、35mm 判換算 100mm の望遠をトリミングで補っています。

広角端の開放絞り F1.8 は「大丈夫かな？」と思える暗さも手ブレの影響の少ないシャッター速度で撮影でき、「入手して良かった」です。富士フィルムのデジタルカメラとの長いつきあいは高感度撮影が実用レベルで活用できる画質の FinePix F11 に始まり、手ぶれ補正機能内蔵の FinePix F100fd ではタイマー 2 秒を併用して夜景を積極的に撮影するようになりました。そして明るいレンズの XQ1 はメモ用カメラの使い勝手をさらによくしてくれ、FinePix F900EXR などとも使用しながら 1 年間で 1 万枚以上撮影することになりました。

FUJIFILM XQ2 の入手でそれまで躊躇していた FUJIFILM XQ1 の 43mm フィルターネジ対応に踏み切り、0.79 倍のワイドコンバージョンレンズ DW-6 (RICOH) と組み合わせて 35mm 判換算約 20mm の画角に対応させました (手荒な扱いにも耐えられることから COOLPIX P330 改と DW-6 の組合せの継続使用を決めています)。

著者が使用してきた FinePix F シリーズや FUJIFILM XQ1 や XQ2 と同程度のサイズ・質量のデジタルカメラが富士フィルムのラインアップから消えました。FUJIFILM X-M1 を所有しますが、これはデジパックのポケットに入れて気軽に運ぶメモ用カメラの用途には使えません。FUJIFILM XQ1、XQ2 を大切に使うとしても悩ましい現実です。

## Appendix 1: FUJIFILM XQ1, XQ2 の仕様

型番	FUJIFILM XQ1	FUJIFILM XQ2																									
有効画素数	1,200 万画素 (参考: [総画素数] 1450 万画素)																										
撮像素子	2/3 型 X-Trans CMOS II センサー、原色フィルター採用																										
画像処理エンジン	EXR プロセッサー II																										
記録メディア	内蔵メモリー (約 66MB) SD メモリカード / SDHC メモリーカード / SDXC メモリーカード (UHS-I 対応)																										
記録方式	静止画: DCF 準拠 (圧縮: Exif Ver.2.3 JPEG 準拠 / DPOF 対応、非圧縮: RAW (RAF 独自フォーマット、専用のソフトが必要)、RAW+JPEG 記録あり) 動画: MOV 形式 (画像: H.264 規格準拠、音声: リアル PCM (ステレオ))																										
記録画素数	表 画面サイズと画素数 (ピクセル) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>4 : 3</th> <th>3 : 2</th> <th>16 : 9</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>L</td> <td>4000×3000</td> <td>4000×2664</td> <td>4000×2248</td> </tr> <tr> <td>M</td> <td>2816×2112</td> <td>2816×1864</td> <td>2816×1584</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>2048×1536</td> <td>2048×1360</td> <td>1920×1080</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 : 1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>L</td> <td>2992×2992</td> </tr> <tr> <td>M</td> <td>2112×2112</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>1536×1536</td> </tr> </tbody> </table> ・画質で Fine, Normal の設定 <ぐるっとパノラマ 360> [360°]: 縦 11520×1624, 横 11520×1080 [180°]: 縦 5760×1624, 横 5760×1080 [120°]: 縦 3840×1624, 横 3840×1080				4 : 3	3 : 2	16 : 9	L	4000×3000	4000×2664	4000×2248	M	2816×2112	2816×1864	2816×1584	S	2048×1536	2048×1360	1920×1080		1 : 1	L	2992×2992	M	2112×2112	S	1536×1536
	4 : 3	3 : 2	16 : 9																								
L	4000×3000	4000×2664	4000×2248																								
M	2816×2112	2816×1864	2816×1584																								
S	2048×1536	2048×1360	1920×1080																								
	1 : 1																										
L	2992×2992																										
M	2112×2112																										
S	1536×1536																										
レンズ名称	フジノン光学式 4 倍ズームレンズ、6 群 7 枚 (非球面 4 枚 7 面)																										
焦点距離	f=6.4mm~25.6mm (35mm フィルム換算: 25mm~100mm 相当)																										
開放 F 値	F1.8 (W) ~F4.9 (T)																										
デジタルズーム	超解像ズーム 約 4 倍 (光学 4 倍と併用 最大約 16 倍)																										
絞り	F1.8/F11 (W)、F4.9/F11 (T) 1/3EV ステップ																										
撮影可能範囲 (レンズの先端から)	標準: [広角] 約 50cm~∞ [望遠] 約 80cm~∞ マクロ: [広角] 約 3cm~3.0m [望遠] 約 50cm~3.0m																										

	FUJIFILM XQ1	FUJIFILM XQ2
撮影感度 (標準出力感 度)(*4)	AUTO (ISO3200 まで設定可能), ISO 100/200/250/ 320/400/500/640/800/1000/1250/1600/ 2000/2500/3200/4000/5000/6400/12800 (標準出力感度)	
測光方式	TTL256 分割測光 マルチ/スポット/アベレージ	
露出制御	プログラム AE/絞り優先 AE/シャッター優先 AE/マニュアル	
露出補正	-3.0EV~+3.0EV 1/3EV ステップ 動画: -2.0EV~+2.0EV 1/3EV ステップ	
手ブレ補正機能	光学式 (レンズシフト方式)	
シャッター スピード	30 秒~1/4000 秒 (全モード合わせて) ・メカニカルシャッター併用	
連写	L 連写: 3.0fps (200 コマ) M 連写: 6.0fps (14 コマ) S 連写: 9.0fps (11 コマ) SH 連写: 12.0fps (9 コマ) 前後撮り連写: 3.0, 6.0, 9.0, 12.0fps (8 コマ) AE ブラケティング ISO ブラケティング フィルムシミュレーションブラケティング ダイナミックレンジブラケティング	
フォーカス	モード: シングル AF/コンティニューアス AF/マニュアルフォーカス AF 方式: インテリジェントハイブリッド AF (TTL コントラスト AF+位相差 AF)、AF 補助光付き AF フレーム選択: オートエリア/エリア選択/自動追尾	
ホワイトバラン ス	シーン自動認識 オート/プリセット(晴天/日陰/昼光色蛍光灯 /昼白色蛍光灯/白色蛍光灯/電球/水中)/カスタム/色温度	
セルフタイマー	OFF/2 秒/10 秒	
フラッシュ	方式: 手動ポップアップ 撮影可能範囲 (感度 800 時) 広角: 約 50cm~7.4m 望遠: 約 80cm~2.7m 光量補正: ±2EV 約 1/3EV ステップ	
フラッシュ 発光モード	赤目補正 OFF 時: オート/強制発光/発光禁止/スローシンクロ 赤目補正 ON 時: 赤目軽減オート/赤目軽減+強制発光/発光 禁止/赤目軽減+スローシンクロ	
液晶モニター	3.0 型カラー液晶モニター 約 92 万ドット (視野率 約 100%)	

	FUJIFILM XQ1	FUJIFILM XQ2
動画	Full HD 1920x1080 60p/30p HD 1280x 720 60p/30p VGA 640x480 30p [HS] 640×480 : 80 フレーム/秒 [HS] 320×240 : 150 フレーム/秒 [HS] 320×112 : 250 フレーム/秒 音声付き (ステレオ) 動画撮影中の光学ズーム可能	連続最大 約 14 分まで 連続最大 約 27 分まで 連続最大 約 115 分まで
入出力端子	デジタル入出力:USB2.0 High-speed、MTP/PTP 接続 HDMI 出力:マイクロ HDMI 端子	
電源	充電式バッテリー NP-48 (付属)	
寸法・質量	本体外形寸法: (幅) 100.0mm×(高さ) 58.5mm×(奥行き) 33.3mm 本体質量:約 187g (バッテリー、メモリーカード含まず) 撮影時質量:約 206g (付属バッテリー、メモリーカード含む)	
枚数の目安 (CIPA 規格)	約 240 枚 (AUTO モード時)	
動作環境	温度:0℃~40℃ 湿度:80%以下 (結露しないこと)	
ワイヤレス転送部	準拠規格:IEEE802.11b/g/n (無線 LAN 標準プロトコル)	

## Appendix 2：著者の富士フィルムのデジタルカメラ使用歴



FinePix F11, FinePix F200EXR, FinePix F300EXR, FUJIFILM XQ2  
FinePix F31fd, FinePix F300EXR, FinePix F1000EXR, FUJIFILM XQ1  
FinePix HS30EXR, FinePix HS50EXR, FUJIFILM X-M1  
[著者の現在保有する富士フィルムのデジタルカメラ]

[FUJIFILM XQ2](#) の購入で著者の保有する富士フィルムのデジタルカメラは上の写真の状況となりました。

最初に入手した FUJIFILM のデジタルカメラは [FinePix 700](#) でしたが、電源 ON からシャッターが押せるまで待ち時間が長く、1 枚撮影すると次の撮影が可能になるまでかなり待たされ、シャッターチャンスを逃すことが多く、「フィルムのコンパクトカメラの代わりに持とう」にはなりません。そして [CoolPix 950](#) (Nikon) を使い始めて「これならば！」でデジタルカメラを積極的に使うようになり、続いて

[CoolPix 4500](#) を使いましたが、室内などの薄暗い条件での撮影に限界を感じました。

そこに FUJIFILM の [FinePix F10](#) が「手ブレ・被写体ブレに強く、暗いところでもきれいに撮れる超高感度デジタルカメラ」として登場しましたが、撮影モードが AUTO のみで触手は動かず、FinePix F10 と同様に「スーパーCCD ハニカム V HR」と「リアルフォトエンジン」搭載がうたわれ、各種の撮影モードに対応し、高倍率ズームが魅力で [FinePix S9000](#) を 2005 年に入手しました。ただ、F10 の撮像素子（1/1.7 型、総画素数 663 万画素）に対して S9000 の撮像素子（1/1.6 型（FinePix S6000fd と同じ光学系を使用していることから実際の使用は 1/1.7 型の領域と推定される）、有効画素数 903 万画素）は 1 画素の受光面積が少ない別物で、感度 ISO 400 以上の画質は期待が大きかっただけにかっかりさせられました。

撮影モードの増えた F10 の後継機の [FinePix F11](#) の登場で「これならば！」で購入し、室内撮影での画質向上に嬉しくなりました（Nikon の CoolPix 775 用アダプタリングを改造して CoolPix のコンバージョンレンズを流用し、デジスコ対応に）。

FinePix F11 に続いて [FinePix F31fd](#)（デジタルカメラの改造の面白さを目覚めさせてくれたカメラ）、[FinePix F100fd](#)（手ブレ補正機能内蔵でタイマー 2 秒併用による夜景の撮影の面白さを教えてくれたカメラ。FUJIFILM XQ1 購入資金の一部になり、上の写真に含まれず）、[FinePix F200EXR](#)（フィルタネジを付加し、自作アダプターでシステムカメラ化）、[FinePix F300EXR](#)（最後の“位相差画素”組込みの「スーパーCCD ハニカム EXR」のカメラで安価だったこともあり、バックアップに 1 台入手して 2 台所有。フィルタネジを付加し、自作アダプターでシステムカメラ化）、[FinePix F900EXR](#)（FinePix F1000EXR 購入資金の一部になり、上の写真に含まれず）、[FinePix F1000EXR](#)、[FinePix HS30EXR](#)、[FinePix HS50EXR](#)、[FUJIFILM XQ1](#)、[FUJIFILM](#)

[XQ2](#)、[FUJIFILM X-M1](#) と FUJIFILM 機を入手してきました。

Nikon、Olympus、PENTAX のカメラも使っていますが、14 台という台数からは FUJIFILM 党・・・。

FinePix F シリーズはメモ用カメラとして常時携行し、1 年の保証期間に近くなると撮影枚数も 1 万枚ほどとなります。F200EXR でズームレバーの使用劣化と思われる不調を発生したため、「保証期間内に」と東京サービスステーションに持ち込んで修理したことから「このズームレバーの形式のカメラは消耗品のつもりで 1 年を目処に更新を」と考えるようになりました。財布への負担を軽減するため、新機種発表前後で販売価格が大幅に下がった時に入手するように努めてきましたが、その結果が写真の台数・・・ (^\_^)；

FUJIFILM はデジタルカメラの厳しいマーケット環境から、STYLISH & TOUGH という防水機能もある FinePix XP90 を除いて、APS-C サイズのプレミアム X シリーズに軸足を移しました (X シリーズに入手しやすい価格帯のモデルとして FUJIFILM X-A2 のダブルズームレンズキットが継続販売されているのは少し安心ですが・・・)

FinePix F11 は「バッテリーを外すと時計がリセットされてしまう」というコンデンサ回りと思われる不調を抱えています。他の機種と同様に現在も撮影に利用できます (ただ、F31fd と比べると色の深さ面で時代を感じさせます。F11 にこの不調はありますが、FinePix F シリーズは私の所有する CoolPix 機よりバッテリーの持ちがよい美点があります)。F31fd はデジスコのバックアップカメラのため、メモ用カメラとしてのお役目からは外しています。FUJIFILM から気軽に携行できるコンパクトデジタルカメラが消えた現在、上のカメラたちを大切に使いいかねば・・・」です (メモ用カメラとして常時携行するのがお役目のため、書いていることとやっていることに矛盾がありますが・・・ (^\_^)；)。

(2016 年 4 月 15 日の blog より)

## ■ リンク

メモ用カメラ遍歴：ロボット人間の散歩道：So-net ブログ

<http://robotic-person.blog.so-net.ne.jp/2014-07-14>

About XF1 FUJIFILM XF1

<http://fujifilm-x.com/xf1/ja/about.html>

激戦区参入 シンプルデザイン高級コンパクト「FUJIFILM XQ1」を検証する (1-3) - ITmedia デジカメプラス

<http://camera.itmedia.co.jp/dc/articles/1311/15/news142.html>

世界最速 0.06 秒の高速 AF！ローパスフィルターレスの 2/3 型「X-Trans™ CMOS II」(\*2) センサーと F1.8 の明るいレンズによる高画質を、手のひらサイズで実現した プレミアムコンパクトデジタルカメラ 「FUJIFILM XQ1」新発売：ニュースリリース | 富士フイルム (2013 年 10 月 18 日)

[http://www.fujifilm.co.jp/corporate/news/articleffnr\\_0816.html](http://www.fujifilm.co.jp/corporate/news/articleffnr_0816.html)

XQ1 FUJIFILM

<http://fujifilm-x.com/xq1/ja/>

FUJIFILM XQ1 富士フイルム

[http://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/x/fujifilm\\_xq1/](http://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/x/fujifilm_xq1/)

FUJIFILM XQ1 製品の特長 富士フイルム

[http://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/x/fujifilm\\_xq1/features/](http://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/x/fujifilm_xq1/features/)

XQ1 ダウンロード 富士フイルム

<http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/download/finepix/xq1.html>

XQ1 のファームウェアの更新：概要 富士フイルム

<http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/download/finepix/xq1firmware/download001.html>

Nikon ニュース 報道資料：開放 F 値 1.8 の明るいレンズと 1-1.7 型裏面照射型 CMOS センサー搭載の高性能コンパクトデジタルカメラ「COOLPIX P330」を発売 (2013 年 3 月 5 日)

[http://www.nikon.co.jp/news/2013/0305\\_p330\\_02.htm](http://www.nikon.co.jp/news/2013/0305_p330_02.htm)

キヤノン：PowerShot S120 | 多彩な撮影モード

<http://cweb.canon.jp/camera/dcam/lineup/powershot/s120/feature-mode.html>

キヤノン：ニュースリリース：キヤノンコンパクト史上最速 AF※1 と新エンジン搭載による高画質を実現 “PowerShot G16” “PowerShot S120” などコンパクトカメラ 8 機種を発売 (2013 年 8 月 22 日)

<http://cweb.canon.jp/newsrelease/2013-08/pr-g16.html>

デジタルカメラ LUMIX DMC-LX7 発売 プレスリリース ニュース パナソニック 企業情報 Panasonic

<http://panasonic.co.jp/corp/news/official.data/data.dir/2012/07/jn120725-2/jn120725-2.html>

DMC-LX7 | デジタルカメラ LUMIX (ルミックス) | Panasonic

<http://panasonic.jp/dc/lx7/>

STYLUS XZ-2 | コンパクトデジタルカメラ | オリンパスイメージング (2012 年 10 月 26 日発売)

<http://olympus-imaging.jp/product/compact/xz2/>

ISO 感度を上げるとシャッタースピードの下限が変化する。

[http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq\\_detail.html?id=110101400&pnum=1815](http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq_detail.html?id=110101400&pnum=1815)

マニュアルフォーカスのピント合わせを短縮するには。(XQ1)

[http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq\\_detail.html?id=110101380&pnum=1815](http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq_detail.html?id=110101380&pnum=1815)

・ マクロだけと思っていたら、MF 時にワンブッシュ AF として使用可能  
DISP-BACK ボタンを長押ししてもマナーモードになりません。

[http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq\\_detail.html?id=110101377&pnum=1815](http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq_detail.html?id=110101377&pnum=1815)

・ FUJIFILM XQ1 及び平成 26 年発売の機種より、DISP/BACK ボタン誤操作防止のため変更させていただきました。

ISO 感度を上げるとシャッタースピードの下限が変化する。

[http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq\\_detail.html?id=110101400&category=&page=1](http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq_detail.html?id=110101400&category=&page=1)

FUJIFILM X10 のシャッター構造はどうなっているのか？

[http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq\\_detail.html?id=110100493&category=&page=1](http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq_detail.html?id=110100493&category=&page=1)

フラッシュ使用時の同調速度は (X20,X10,X-S1,XQ1,XF1)

[http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq\\_detail.html?id=110101393&pnum=1815](http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq_detail.html?id=110101393&pnum=1815)

絞り優先モードでシャッタースピードが 1/4000 まで設定されず、それより低速で赤色表示になります。(X100S/X100/X20/X10)

[http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq\\_detail.html?id=110101275&category=&page=1](http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq_detail.html?id=110101275&category=&page=1)

X20 で撮影できる枚数を 270 枚よりも増やしたい。

[http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq\\_detail.html?id=110101338&category=&page=1](http://faq.fujifilm.jp/digitalcamera/faq_detail.html?id=110101338&category=&page=1)

F1.8 の明るいレンズと 2/3 型「X-TransTMCMOS II」センサーを約 206g の小型・軽量ボディに搭載。世界最速 0.06 秒の AF と最大 9 点のピントエリア自動表示により快適な撮影が可能。プレミアムコンパクトデジタルカメラ「FUJIFILM XQ2」新発売：ニュースリリース | 富士フイルム

[http://www.fujifilm.co.jp/corporate/news/articleffnr\\_0953.html](http://www.fujifilm.co.jp/corporate/news/articleffnr_0953.html)

XQ2 | プレミアムコンパクトカメラ | FUJIFILM X

<http://fujifilm-x.com/ja/cameras/xq2/>

## ■ Maniac シリーズ

[FinePix S9000 Maniac](#)

[FinePix F31fd Maniac + F11](#)

[FinePix F100fd Maniac](#)

[FinePix F200EXR Maniac](#)

[FinePix F300EXR Maniac](#)

[FinePix F900EXR Notes](#)

[FinePix F1000EXR Notes](#)

[FinePix HS30EXR Maniac](#)

[FinePix HS50EXR Maniac](#)

[FUJIFILM XQ1, XQ2 Maniac](#)

[FUJIFILM X-M1 Maniac](#)

[COOLPIX P5100 Maniac](#)

[COOLPIX P330 Maniac](#)

[Conversion Lens Maniac- コンバージョンレンズの活用 -](#)

[Tripod Maniac - B 級 \(?\) 三脚選び -](#)

[Step-Up, -Down Rings Maniac](#)

[TS-613 & TSN-664 Digiscoping Maniac](#)

[Papilio 6.5x21 Maniac](#)

[HYBRID W-ZERO3 Maniac](#)

[ZenFone 2 Laser Maniac](#)

[ASUS VivoTab Note 8 notes](#)

[m-Stick MS-NH1 notes](#)

[LaVie Light BL350-CW Maniac](#)

[PJ-20 Maniac](#)

[VT250 Spada Maniac](#)

[WACHSEN BA-100 Agriff Maniac](#)

[Audiovisual Equipment notes - Loudspeakers -](#)

[REGZA 32ZP2 and TVs note](#)



## 『FUJIFILM XQ1, XQ2 Maniac』

2014年8月30日発行、改定2版f（2018年2月28日）

著者：市川 誠 (maktich@pa2.so-net.ne.jp)

ロボット人間の散歩道：So-net ブログ

<http://robotic-person.blog.so-net.ne.jp/search/?keyword=XQ1>